

迷った事は必ず報告

そろそろ、涼しくなってきました。これからは、運動に勉学に行楽に最適な季節になってきました。是非、良い秋をお楽しみ下さい。

今月のお題も報連相でいきます。



専務取締役 吉田治伸

「このことは上司(会社)に報告したほうがいいかな」と迷ったあげく、結局、「まあ、いいか。大した事にはならないだろう」と考え直してしまい、あとで失敗をしてしまう。皆さんはこういう経験をしたことはないでしょうか。

こういうように、チラリとでも「報告しておいたほうがいいかな」と思うのは、無意識のうちに、何らかの不安な要素を感じている場合に多いのです。しかし、「多分、大丈夫」と勝手な判断で、不安を打ち消して、事態を軽く考えてしまうわけです。えてして、こういう時にこそ、問題が起こりやすいものなのです。

あとになって「あの時、報告しておけばよかった」と後悔してももう遅いのです。

報告が、取り越し苦労に終わったとしても、それは問題が発生しなかったのですから、それはそれでよいのです。念には念を入れて、もし迷ったときには確実に報告する。これを必ず心がけてください。

私自身、支店長時代、現場から「物をこわしました」とか「食事をごちそうになりました」とか「新しく入った人のマナーがよくないよ」とかタイムリーに現場から報告をもらい、タイムリーに現場に行き、その結果、大きな信頼をお客様と結べた事が多々ありました。

現場も会社もほめられて皆の幸せを目指す。「報連相」はそのための大変な合言葉です。